

令和6年度学長裁量経費採択課題（詳細内容）

科研費獲得サポート重点研究費

公募分野	代表者		テーマ
2	幼児教育講座	林 牧子	保育者のフィンガーペインティング体験を通した子どもの心情に対する気づきを促す要素と気づき内容の関係
プロジェクト概要	<p>現職保育者を対象とし、子どもの心情に対する保育者自身の実感に基づいた具体的な理解を促すワークショップとしてのフィンガーペインティングを実施する。これまでの筆者の研究より、フィンガーペインティングの体験が、子どもの様々な心情理解および子どもへの対応における気づきを促すと共に、保育者としての在り方における再考や意識化を促進する機能を有することが示唆されている。そこで本研究では、保育者のフィンガーペインティングに対する期待や積極性の程度とフィンガーペインティングの機能における捉え方との関係性を検証することを通し、本ワークにおける参加態度による気づきの内容の差異を明らかにする。</p>		
研究の目的	<p>保育者において、子どもに対して即時・即興的に、また臨機応変に対応することは専門性の一つとして不可欠なものとされているが、このような対応は、個々の保育者の経験や実践知に委ねられることが多い。また、これらは保育センスや職人技という言葉で表されることもあるように、その対応を選択した理由や経緯についての客観化や可視化はされず、感覚的で直感的な技術として扱われることもある。そこで本研究では、子どもの集団活動に対する保育者の関与を観察し、活動内容に変容を及ぼした対応内容を分析すると共に、そのような対応を選択した保育者の意図の聞き取りをとおして保育者による子どもの心情の捉えと即時・即興的な関わりの実相を明らかにすることを目的とする。</p>		
研究の方法	<p>対象者は乳幼児および保育者である。保育時間内に、筆者が実践者として幼児（研究1）および乳児（研究2）を対象に集団でフィンガーペインティングの活動を行った。保育者も同様に活動を行い、実施後に子どもたちの様子に対する捉えの内容および、自身が参加したことによる気づきなどを聞き取った。研究1はB市内企業型保育所にて4~5歳児を対象として実施した。主たる対象は5歳児男児1名と保育者2名である。園内のプレイルームに幼児用のテーブルを並べ、幅90cmの白色ロール紙を貼り、その上に自由に描いた。研究2はA市内小規模保育所にて2歳児を対象として実施した。主たる対象は2歳児女児3名と保育者3名である。園庭に幅90cm×4mの白色と黒色のロール紙を2枚並べて敷き、その上に自由に描いた。双方とも使用する絵の具の量と画用紙の枚数に制限は無い。また、終了時間の設定はせず、自然に活動を終えるまで継続した。実施時間は双方ともおよそ45分であった。2園ともフィンガーペインティングの活動は初めてである。</p>		

研究の成果

研究1では、幼児4名による集団フィンガーペインティングの観察を通し、活動の内容及び方向性に影響を与えた保育者の関わりについて、TEMによる分析と保育者への聞き取りを通して明らかにした。その結果、3種類の関わりが確認された。さらに、保育者は子どもの様子を捉えながら自身の対応を変化させており、省察しながら保育を行うということ、また、保育者の関わりは幼児の活動内容に必ずしも影響を与えるものではなく、適時適切に機能することが活動の活性化を促す一要因であることが示唆された。本研究の成果は大学美術教育学会誌「美術教育学研究」第57号に掲載されている。

研究2では、2歳児による集団フィンガーペインティングの観察を通し、新奇な遊びに抵抗感を示した女児1名と保育者1名を対象として活動過程を情動調律の視座から探索的に検討した。その結果、保育者は対象児の思いを間主観的に捉えた上で個々に適切な対応を選択し、新しい遊び環境へ関与できるよう援助していることが示された。本研究で得られた知見は、2歳児における主体的な遊びを保障するために必要な保育者のスキルの一つを示唆するものである。本研究の成果はEuropean Early Childhood Education Research Association Conference 2024にて発表した。